

西光寺だより

第三号 平成二十二年十一月一日発行

十一月に入り、肌寒い日がだんだんと増えてまいりました。十一月は紅葉の美しい時期ですが、自然は移り変わる四季おりおりの姿を私たちに平等に見せてくれます。広い視野で見ると、私たちもきつとこの雄大な自然の一部として存在しているのでしようね。

親鸞聖人のお言葉に「自然法爾」ということばがありますが、これには「あるがまま」という意味があります。自然はいつもあるがままにそこに存在し、やがては朽ち果てるまでその生命を全うします。私たち人間も目先のことや欲にとらわれずに、自分という「あるがまま」の存在を認めてあげたいですね。

今月は、報恩講法要が行われます。日常の中ではなかなか難しいかもしれませんが、浄土真宗最大となる法要を通して「あるがまま」の自分を認めてあげる機会にしてみるのも良いかもしれませんね。

◆十一月・十二月・一月の行事◆

十一月二十三日（火・祝） 午後一時より追弔会

引き続き午後二時・午後七時 報恩講法要

十二月三十一日（金） 午後十一時五十分より鐘つき

一月一日（土） 午前十時より元旦会

●今月のことば●

『家族』

親子 夫婦 兄弟 姉妹、
あなたたちが いたわり合い 愛し合わないで、
どうして本当に 幸せになりますか？

「でも、孤独なら？」

いいえ。

いつも 佛さまは 御同伴です。

◆先月の報告◆

十月九日午後二時、午後七時、西光寺本堂にて秋季永代経法要が行われました。今回は、吹田市の徳善寺住職、赤山得成師にお説教をしていただきました。

自分自身の病気の経験をもとに、命の大切さを伝えていただき、また、自力での限界を超えても救われない、欲や煩惱から離れられない自分自身、他力でこそ救われてゆく自分自身の身のおき方を教えていただきました。本当に良いご縁に巡り合えて感謝です。色々な方々の法話を聴聞させて頂き、味わい方も様々ですが、人が変われば言葉も、伝わり方も変わります。こうした法要を通して何らかの人生の糧になれば幸いです。

この日は雨で、足元の悪い中をお越しいただき、本当にありがとうございます。ようこそのお参りでございました。

浄土真宗本願寺派 白毫山 西光寺

大阪府茨木市西河原一―七―二

電話 〇七二―六二二―四七九四

FAX 〇七二―六二二―九二九一

<http://www.osaka-saikouji.net/>